

地域における住民組織の主体性を 醸成するための保健師の支援 ～活動初期に焦点をあてて～

中島 史佳¹⁾ 坪川 トモ子²⁾

1) 魚沼市市民福祉部健康増進課

2) 新潟青陵大学看護学部看護学科

Support of Public Health Nurses to Foster the Independence of Residents' Organizations in the Community: A Focus on the Early Stages of Activities

Fumika Nakajima¹⁾ Tomoko Tsubokawa²⁾

1) Uonuma City Citizens Welfare Department Health Promotion Division

2) Department of Nursing, Faculty of Nursing, Niigata Seiryō University

要旨

本研究は、地域における住民組織の主体性を醸成するために、活動初期の保健師による支援内容を明らかにすることを目的とした。主体的な活動をしている住民組織に関わった経験がある保健師2名を対象とし個別の半構造化インタビューを行い、質的に分析した。

結果、8つのコアカテゴリー：「地区を基盤とした活動がしやすい体制をつくる」、「意欲を引き出す」、「実際の活動を見据えて基盤を整える」、「全員参加できる運営を工夫する」、「メンバーの一体感を図る」、「安心して活動できる環境を整える」、「組織と地域を結びつける」、および「組織相互の交流の機会を設ける」が生成された。住民組織の活動初期において主体性の醸成に関わる保健師は、メンバーと組織の発展状況を見極め、地域に根差した活動を意図しながら支援することが重要であることが示唆された。

キーワード

地域、住民組織、主体性、活動初期、保健師

Abstract

This study clarified the support of public health nurses in the early stages of activities in order to foster the independence of community organizations in the region.

We conducted individual semi-structured interviews with two public health nurses who had experience in engaging in independent community organizations and analyzed them qualitatively.

As a result, eight core categories: "Create a system that facilitates activities based on the district", "Inspire motivation", "Prepare the foundation in anticipation of actual activities", "Develop an operation that allows everyone to participate", "Aim for a sense of unity among members", "Create an environment where you can work with peace of mind", "Connect organizations and communities", and "Provide opportunities for mutual exchange between organizations" were generated. It was suggested that it is important for public health nurses involved in fostering independence in the early stages of community organization activities to identify the development status of members and organizations and to intentionally support community-based activities.

Key words

community, community organization, independence, early activity, public health nurse

I はじめに

21世紀における国民健康づくり運動、通称「健康日本21」は、ヘルスプロモーションの理念を取り入れ、自らの健康観に基づく一人ひとりの取り組みを社会の様々な健康関連グループが支援し、健康を実現することを理念としている¹⁾。ヘルスプロモーションの戦略の1つに掲げられている「地域活動の強化」では主体的な住民組織活動が重視され²⁾、「健康日本21」では、地域の健康づくりにおける住民組織や民間の企業・団体の主体的な参加の重要性が示されている¹⁾。

多様化する地域の健康課題に対応するため「地域保健対策の推進に関する基本指針」が2012年に改正された際、推進方針に「ソーシャル・キャピタルを活用した自助及び共助の支援の推進」が追加された³⁾。住民の健康ニーズの多様化に伴い、地域の健康課題が多様化する中、健康づくりの推進や地域保健の推進において、信頼、互酬性の規範、人的ネットワークを3要素とするソーシャル・キャピタルの概念を踏まえた住民相互による活動への期待が高いことがうかがえる。また、日本において地域の健康課題に取り組んできた住民組織活動としては、愛育班、保健補導員、健康推進員などがあげられ、様々な地域組織の形態を通じて日本各地で実践されている⁴⁾。

住民組織活動に関する先行研究では、住民組織の主体的な参加の必要性^{4),5),6)}、住民組織内の個人・住民組織全体の成長⁶⁾、活動環境の整備^{6),7)}、住民組織内の構成員の活動意欲^{5)~8)}、保健師の支援内容^{5),7)}などの組織そのものに着目したものから住民組織が関わる保健師の支援に着目したものまで多岐にわたる報告があり、地域における住民組織活動への関心が高いことがうかがえる。中山⁷⁾による住民組織活動が地域づくりに発展する過程を5つの過程に分けて保健師の支援内容を報告しているように、住民組織の活動時期に応じた関わり

を分析した研究が複数報告されている^{4),7)}。麻原⁶⁾は、住民組織が地域の問題に取り組もうとする意識は、全過程で高められて、次第に自主的に活動できるように熟成していくと報告している。

これらのことから、住民組織が主体的な活動をしていくためには、活動時期に応じた支援が必要であり、特に初期段階は目的意識や組織メンバーの関係性の構築など活動基盤が作られ始める時期であり、保健師の意図的な支援が重要な時期であると考えられる。しかし、住民組織の活動初期において保健師が行う具体的な支援内容に焦点化した報告は限られている。

以上のことから、地域における住民組織の主体性を醸成するために、特に初期の段階で保健師が行っている支援内容を明らかにすることを本研究の目的とした。

II 研究目的

1. 研究デザイン

半構造化インタビューによる質的研究

2. 用語の定義

本研究では、地域の住民組織に関する先行研究を引用・参考にし、研究テーマに係る3つの用語を以下のように定義した。

- ・「住民組織」とは、2つの先行研究^{7),8)}の定義を参考に、「組織の目的に、個人の知識・技術の向上にとどまらず、保健領域の地域の健康課題への貢献や支援に関することを含み、地域住民により構成されている組織」とし、自主グループも含むこととした。
- ・「地域における住民組織の主体性」とは、「組織の成員が地域の健康問題について他の成員と共に自主的に行動を起こし始める、また、起こすこと」⁸⁾とした。
- ・「住民組織活動の初期」とは、「活動準備期」（健康づくりの活動のために新たな住民組

織の結成、もしくは住民組織としての主体的な健康づくりの活動が見られない時期)、「活動意思決定期」(健康づくりの活動のために新たな住民組織を結成、もしくは既存の住民組織活動が新たに健康づくりに取り組むことを決定する段階)、「活動開始期」(住民組織が活動を開始し活動を軌道に乗せるまでの段階)⁷⁾の3つの段階を総称する時期とした。

3. データ収集期間

2019年5月から6月末

4. 調査対象

対象は、主体性の醸成がみられる住民組織の活動初期に関わった経験がある保健師とし、A市の保健師代表者に対象者2～3名の選定・推薦を依頼した結果、P区、Q区からそれぞれ1名ずつの保健師、計2名に協力を依頼とすることとした。主体性のある住民組織は、推薦者に本研究における定義を示し、その判断と選定も合わせて依頼した。

5. データ収集方法

1) インタビュー方法

対象者と相談の上、インタビューの場所を決定し、インタビューガイドに基づき、各1時間程度の個別インタビューを筆頭報告者1名で行った。

2) インタビュー内容

(1) 対象者情報

保健師の経験年数、住民組織への支援時期、支援した住民組織の概要

(2) 住民組織活動の初期において行った支援内容

以下の点について、住民組織の主体性が醸成されるように保健師が意図したことや配慮したこと、およびそれらによって組織

が変化した様子を語ってもらった。

①支援に至った経緯、住民組織への直接的な支援、間接的な支援、また、それらによる個人や組織の変化

②行政内での関係部署との連携の有無、行政内での関係部署の連携の仕組みづくり、行政外での関係部署との連携の有無、行政外での関係部署の連携の仕組みづくり、それらによって関わった人たちの変化

6. データ分析方法

2名各々の逐語録から住民組織の主体性が醸成されるように保健師が意図したことや配慮したことに着目・抽出し、発言の趣旨を損なわないようにデータ化し、発言内容の文脈に留意しながら意味の読み取れる単位で抽出し、できるだけ語りの言葉に忠実にコード化した。コードを類似する意味内容ごとにまとめてサブカテゴリー化、カテゴリー化した。2名各々のデータから生成されたカテゴリーを合わせて、意味内容の類似性からコアカテゴリー化した。分析は報告者2名で行った。

7. 倫理的配慮

1) 研究協力の任意性と撤回の自由

本研究への参加は自由意思であり、不参加や中断による不利益は生じないことも含めて説明し、書面での同意を得てからインタビューを行った。本研究の説明は口頭と書面により行い、同意書への署名をもって参加意思を判断した。研究参加を辞退する場合は同意撤回書を2部作成し、1部は対象者が保管、1部は研究責任者に送付してもらうこととした。

2) 個人情報の保護とデータの取り扱い

インタビュー内容を正確に分析するために、承諾を得て、ICレコーダーに録音した。逐語録作成時は、プライバシーに配慮し、個人や所属を特定する文言は記号化してUSBメモリ

内に保存した。研究データは、論文提出後に復元不可能な状態に削除・破棄する。本研究で得られた情報は、研究目的以外では使用しないことで、プライバシーの保護を厳守した。

研究成果の公表については、本看護研究は論文としてCDに収め新潟青陵大学に保管され、また、看護系学会等で発表する場合もあることに関して了解を得た。

研究に際して、新潟青陵大学看護学研究倫理審査委員会の承認を得て実施した（承認番号：2018 - 06）。

Ⅲ 結果

1. 保健師が活動を支援した組織やグループの概要

インタビュー対象者が取り上げた地域の住民組織の概要とそれらの組織に関わる保健師の立場は次のとおりであった。

・P区：ロコモ予防体操を普及するサポーターグループ

市民から行政に、ロコモティブシンドローム（以下、ロコモ）予防体操普及が提案されたことをきっかけとし、P区は平成22年度から独自の「ロコモ予防事業」を開始した。これは自治地区別のサポーターを養成し、地域で自主的に体操普及ができるように支援する事業であり、理学療法士が主担当、地区担当保健師が副担当として、サポーター養成から養成後の地域での活動支援に関わっている。サポーターグループは、区が主催する全8回の養成講座を終了後、ロコモ予防体操普及サポーターとし、自身が居住する自治地区で、各種集会などの場を活用しロコモ予防体操を普及する活動を行うグループである。インタビュー対象の保健師はこのグループの設立当初に関わり、他区への異動後、平成31年度から再度担当していた。

・Q区：生活習慣病予防を目的としたウォーキング自主グループ

Q区は、地域の健康課題としてメタボリックシンドローム該当者割合が他の区よりも高かったことから、メタボ予防事業として、平成25年からウォーキング普及事業を開始した。コミュニティ協議会単位の地域で全4回のウォーキング教室を開催し、教室終了後、継続した活動ができるよう自主グループの結成に繋げている。事業担当は地区担当保健師が行っている。インタビュー対象の保健師はこのグループに平成28年度から関わり、インタビュー実施時の平成31年度も担当であった。

2. 住民組織の活動初期において主体性を醸成するために行った支援内容

P区保健師とQ区保健師ごとに、カテゴリは【 】, サブカテゴリは《 》、コードは「 」で示す。

1) P区における住民組織の活動初期における主体性を醸成するために行った支援

P区保健師が行った地域における住民組織への支援において、主体性を醸成するための支援内容の要素として抽出されたコードは37であった。それらから、22のサブカテゴリ、11のカテゴリが生成された（表1）。

【地区を基盤にした活動を行うための仕組みづくり】は、《自治地区単位でメンバーを推薦してもらおう》、《同じ地区の人同士でグループワークを行う》、および「地域を振り返ってもらい、地域でできる普及方法を考えてもらう」など《自分の地域にあった計画を考えてもらう》の3つのサブカテゴリから生成された。人伝に同じ居住地区の有志を集め、顔を合わせながら地域の原稿を知ってもらう支援を行っていた。

【実際の活動を見据えた計画づくり】は、「グループワークでは、繰り返し話し合うことを大切にする」などの《計画が具体的になるまで話し合う》と、《段階的に話し合い、計画を作るようにする》の2つのサブカテゴリ

から生成された。メンバー間の関係性をつくりながら、メンバー同士が実際活動をイメージできるような支援を行っていた。

【相互学習による意欲向上】は、「役割分担を自分たちで考えてもらう」などの《メンバーの意向を反映する》と、「地区活動計画書を他地区の人に発表する」などの《グループワークの成果を相互に共有し、学び合う機会をつくる》の2つのサブカテゴリーから生成された。メンバーの自主性の形成やグループダイナミクスに配慮していた。

【新たなことを得られる内容の工夫】は、メンバー個々のニーズに対応した《養成講座に参加したことで満足感を得られるようにする》の1つのサブカテゴリーから生成された。

【参加しやすい話し合いのための配慮】は、「発言してくれそうな人の発言を促し話のきっかけをつくる」などの《メンバー一人ひとりが意見を出しやすいような進め方を工夫する》と、《話し合いのルールを作り、円滑に進められるようにする》の2つのサブカテゴリーから生成された。自ら声をあげにくいメンバーが安心して発言できるように、きっかけやルールづくりしていた。

【安心して活動できるための支援】は、《地区での活動に向けて、メンバー同士で練習を重ねてもらう》と、《活動の初期は職員が同行し、必要時にフォローする》の2つのサブカテゴリーから生成された。メンバーが自信をもてるように見守り、必要に応じてバック

表1 P地区における住民組織の主体性を醸成するための保健師の支援内容

場面	カテゴリー	サブカテゴリー	C*
養成講座企画 養成講座の実施	地区を基盤にした活動を行うための仕組みづくり	自治地区単位でメンバーを推薦してもらう	1
		同じ地区の人同士でグループワークを行う	2
		自分の地域にあった計画を考えてもらう	2
	実際の活動を見据えた計画づくり	計画が具体的になるまで話し合う	2
		段階的に話し合い、計画を作るようにする	1
	相互学習による意欲の向上	メンバーの意向を反映する	2
		グループワークの成果を相互に共有し、学び合う機会を作る	2
	新たなことを得られる内容の工夫	養成講座に参加したことで満足感を得られるようにする	2
参加しやすい話し合いのための配慮	メンバー一人ひとりが意見を出しやすいような進め方を工夫する	2	
	話し合いのルールを作り、円滑に進められるようにする	1	
地区での活動	安心して活動できるための支援	地区での活動に向けて、メンバー同士で練習を重ねる機会を設ける	1
		活動の初期は職員が同行し、必要時にフォローする	3
	無理なく活動するための支援	活動を無理なく開始できるように支援する	2
		様々な機会を活用し活動を地域に広報する	2
		市作成の教材やマニュアルの活用を提案し、普及活動をしやすくする	1
	関係者との協力体制づくり	関係部署との連携体制を整える	2
大学に事業評価を委託する		2	
フォローアップ研修	継続する意欲を維持・向上するための研修開催	フォローアップ研修を毎年実施し、新しい情報を提供する	1
		フォローアップ研修では、メンバーの日頃の悩みを話し合えるようにする	2
普及	市民からの認知の向上	地区別のグループを組織化し、市民に広く広報する	1
全体	合意の元に活動するための支援	メンバー全員の意思を確認しながら進める	2
		メンバー全員の納得による合意の上で活動できるようにする	1

*C：コード数

アップする関わりであった。

【無理なく活動するための支援】は、「既存の集まりの場で体操を行うなどを提案する」などの《活動を無理なく開始できるように支援する》、《様々な機会を活用し、活動を地域に広報する》、および《市作成の教材やマニュアルの活用を提案し普及活動をしやすくする》の3つのサブカテゴリから生成され、活動のきっかけや場を確保し、組織の負担を軽減する工夫をしていた。

【関係者との協力体制づくり】は、「関連職種・部署に事業の説明を行う」などの《関係部署との連携体制を整える》と《大学に事業評価を委託する》の2つのサブカテゴリから生成され、住民組織活動の理解者や支援者の拡充に努めていた。

【継続する意欲を維持・向上するための研修開催】は、《フォローアップ研修を毎年実施し新しい情報を提供する》、《フォローアップ研修ではメンバーの日頃の悩みを話し合えるよ

うにする》の2つのサブカテゴリから生成され、知識の定着と意欲の継続を心がけていた。

【市民からの認知の向上】は、《地区別にグループを組織化し、市民に広く広報する》の1つのサブカテゴリから生成され、住民組織活動を地域に普及させる支援をしていた。

【合意の元に活動するための支援】は、《メンバー全員の意思を確認しながら進める》、《メンバー全員が納得による合意の上で活動できるようにする》の2つのサブカテゴリから生成され、メンバー間および組織としての合意形成を行っていた。

2) Q区における住民組織の活動初期における主体性を醸成するために行った支援

Q区保健師が行った地域における住民組織への支援において、主体性を醸成するための支援内容の要素として抽出されたコードは56であった。それらから、21のサブカテゴリ、12のカテゴリが生成された(表2)。

表2 Q地区における住民組織の主体性を醸成するための保健師の支援内容

場面	カテゴリ	サブカテゴリ	C*
教室の企画	地区を基盤とする自主グループづくり	地区で教室を開催し自主グループにつなげる	3
教室の実際	地区で活動するための意識付け 自主グループ参加への意欲がわく仕掛けづくり 自主グループ化を見据えた人探し メンバーの意思の尊重	自分の地区のことを考えられるようにする	2
		自主グループをイメージ化できるようにする	5
		自主グループ参加意思を確実にフォローする	3
		自主グループ化した時のリーダー候補を探す	1
		地区で活動するボランティア組織に参加してもらう	4
		メンバーが自身の意思を表現できるようにする	2
		メンバーの考えを反映した活動ができるようにする	2
自主グループ活動の支援	地区にオープンなグループづくり	教室修了者以外のグループ参加希望者も募る	1
		行楽の時に合わせて開催する	3
	楽しめる要素の企画	グループが自己決定できるように情報提供をする	3
		メンバーに話し合っ決めてもらう	2
		メンバー一人ひとりの意見を聞く	2
	グループの成長過程に応じた支援	グループの力量に応じて支援内容を見極める	4
		軌道に乗るまで、活動状況を注視する	2
		軌道に乗ってから意図的に関わる	3
	安心して活動するための運営体制づくり	安全に活動できるようにする	2
		グループが協力し合えるようにする	2
リーダーが活動しやすいように支える		3	
他グループとの交流の機会づくり		継続的に交流会を企画する	1
地域に根差した活動の推進		地域のボランティア組織と協働する	5
		地区の関係団体に協力を依頼する	2

*C：コード数

【**地区を基盤とする自主グループづくり**】は、「コミュニティ協議会単位で開催したウォーキング教室をきっかけにした」、「自主グループがない地区で自主グループのきっかけとなる教室を開催した」等の《地区で教室を開催し自主グループに繋げる》の1つのサブカテゴリから生成された。同じ居住地区内で仲間をつくり、地区内に自主グループが必要であることを認識できるように支援を行っていた。

【**地区で活動するための意識付け**】は、「教室では生活習慣に関する地域の健康課題を具体的に伝え、参加者に自分事として捉えてもらった」などの《自分の地区のことを考えられるようにする》の1つのサブカテゴリから生成された。地区の健康問題や課題に関心をもち、それらを共有するよう関わっていた。

【**自主グループ参加への意欲がわく仕掛けづくり**】は、先行グループの体験談を聞く機会を設けるなどの《自主グループをイメージ化できるようにする》と、「教室で自主グループ参加への意向を尋ね、グループ発足のきっかけとした」などの《自主グループ参加の意思を確実にフォローする》の2つのサブカテゴリから生成された。自主グループ参加への動機づけを高めること、適切なタイミングで声をかけることをしていた。

【**自主グループ化を見据えた人探し**】は、《自主グループ化した時のリーダー候補を探す》と、自主グループ活動をサポートしてくれる人材づくりなどの《地区で活動するボランティア組織に参加してもらう》の2つのサブカテゴリから生成された。

【**メンバーの意思の尊重**】は、《メンバーが自身の意思を表現できるようにする》と《メンバーの考えを反映した活動ができるようにする》の2つのサブカテゴリから生成された。

【**地区にオープンな自主グループづくり**】は、地区自治会の回覧を活用した《教室修了者以外の自主グループ参加希望者を募る》の1つのサブカテゴリから生成され、情報提供を

行い、誰でも参加しやすい開かれた組織となるような工夫をしていた。

【**楽しめる要素の企画**】は《行楽の時季に合わせて開催する》の1つのサブカテゴリから生成された。学習的な内容に留まらず、集まることが楽しみになるような要素を組み込んでいた。

【**メンバーの意思を尊重したグループ運営への支援**】は、《グループが自己決定できるように情報提供する》、《メンバーに話し合っ決めてもらう》、および《メンバー一人ひとりの意見を聞く》の3つのサブカテゴリから生成された。メンバー一人ひとりの意見や考えを大切にしながら、メンバー間及び組織としての合意形成を図り、グループによる決定を支援する関わりであった。

【**グループの成長過程に応じた支援**】は、《グループの力量に応じて支援内容を見極める》、《軌道に乗るまで、活動状況を注視する》、および《軌道に乗ってからも意図的に関わる》の3つのサブカテゴリから生成された。グループの成長段階を意識して、メンバーが主体的に活動を継続できるような関わりだった。

【**安心して活動するための運営体制づくり**】は、《安全に活動できるようにする》、《グループが協力し合えるようにする》、および《リーダーが活動しやすいように支える》の3つのサブカテゴリから生成された。地区を歩き回る活動の特性に配慮した安全の確保と、グループ内の良好な人間関係の形成により、メンバーが協力して参加できるように配慮をしていた。

【**他グループとの交流の機会づくり**】は、《継続的に交流会を企画する》の1つのサブカテゴリから生成された。

【**地域に根差した活動の推進**】は、《地域のボランティア組織と協働する》と《地区の関係団体に協力を依頼する》の2つのサブカテゴリから生成され、地域の関係組織・団体とのつながりを意図して関わっていた。

表3 保健師が住民組織の初期における主体性を醸成するための支援内容

コアカテゴリー	カテゴリー	区
地区を基盤とした活動がしやすい体制をつくる	地区を基盤とした自主グループ作り	Q
	地区を基盤とした活動を行うための仕組みづくり	P
	地区にオープンなグループづくり	Q
意欲を引き出す	地区で活動する意識付け	Q
	新たなことが得られる内容の工夫	P
	自主活動の意欲がわく仕掛けづくり	Q
	相互学習による意欲向上	P
全員参加できる運営を工夫する	楽しめる要素の企画	Q
	参加しやすい話し合いのための配慮	P
メンバーの一体感を図る	メンバーの意思の尊重	Q
	メンバーの意思を尊重したグループ運営への支援	Q
実際の活動を見据えて基盤を整える	合意の元に活動するための支援	P
	自主グループ化を見据えた人探し	Q
安心して活動できる環境を整える	実際の活動を見据えた計画づくり	P
	グループの成長過程に応じた支援	Q
	安心して活動するための運営体制づくり	Q
	安心して活動できるための支援	P
組織と地域を結びつける	無理なく活動するための支援	P
	地域に根差した活動の推進	Q
	市民からの認知の向上	P
組織相互の交流の機会を設ける	関係者との協力体制づくり	P
	継続する意欲を維持・向上するための研修開催	P
	他グループとの学び合いの機会づくり	Q

3. 保健師が住民組織の初期における主体性を醸成するための支援の要素

P区保健師とQ区保健師のインタビューで抽出した計23のカテゴリーを意味内容の類似性から分析し、8のコアカテゴリー：『地区を基盤とした活動がしやすい体制をつくる』、『意欲を引き出す』、『全員参加できる運営を工夫する』、『メンバーの一体感を図る』、『実際の活動を見据えて基盤を整える』、『安心して活動できる環境を整える』、『組織と地域を結びつける』、『組織相互の交流の機会を設ける』が生成された（表3）。

IV 考察

地域における住民組織の主体性を醸成するために、特に初期の段階で保健師が行っている支援内容として生成された8つのコアカテゴリーは、以下の3つに大別されると考えられる。

1. 地域を志向する意識の醸成

本研究で保健師らは、企画の段階において、『地区を基盤とした活動がしやすい体制をつくる』ため、地区での活動を意識し、かつ地域住民に対してオープンな組織を意図して支援していた。

住民組織は活動目的に、個人の知識・技術の向上にとどまらず、保健領域の地域の健康課題への貢献や支援に関することを含み、自己変容と社会変容が期待される^{7),8)}。そのため、住民組織のメンバーが、自身が暮らす地域のことを考え、地域の健康問題に気づくことが地域を志向する主体性の礎になると考えられる。本研究の保健師が行っていた居住地区を基盤とした組織・グループづくり、居住地区を基盤とした仕組みを作ったことは、中山⁷⁾による住民組織活動が地域づくりに発展する活動準備期における「新たな住民組織をつくる」保健師の支援内容を支持する結果であった。また、Q区において地域にオープンな自主グループづくりをすることは、グループに

新たなメンバーが加わりやすくする配慮であった。メンバーの固定化は縦の関係や他者を排除するなど、凝集性の負の側面を招く場合があり、その弊害を防ぐことは、グループ内の関係づくり、活動する仲間が地域に広がる効果も考えられるため、地域を志向することも目的である住民組織・グループの主体性の醸成に有効であると考えられる。

2. 組織・グループ内に向けた支援

本研究の保健師らは、メンバーに「地区で活動するための意識付け」により活動への理解を促しながら、メンバー個々のニーズに対応するような「新たなことが得られる内容の工夫」「自主活動の意欲がわく仕掛けづくり」を行っていた。さらに、メンバー相互の交流を意図して相互学習を取り入れ、楽しめる要素を盛り込むなどの『意欲を引き出す』支援を行っていた。特に「地区で活動する意識付け」は、中山⁷⁾による「活動へのやる気を引き出す」支援内容を支持する結果といえ、メンバー各自が組織活動を通して社会変容に関わることを確認することは自己効力感を生むのではないかと考えられる。個人ニーズに留まらず、地区の健康を志向できるようになるための支援は、地域の健康課題への貢献や支援を目指す住民組織の主体性を醸成するためには不可欠な要素と考える。

『全員参加できる運営を工夫する』支援では、「参加しやすい話し合いのための配慮」をすることで発言を促し、「メンバーの意思を尊重」できる配慮をしていた。山田ら⁵⁾は、住民組織における活動意欲の要因として、メンバーと協議した結果やメンバー自身の意見が活動に反映されることを挙げている。このように、保健師は、メンバー一人ひとりが意思を表出しやすい環境をつくり、全員が活動に意欲的に取組めるように配慮することは組織としての主体性につながると考えられる。

『メンバーの一体感を図る』支援は、「メン

バーの意思を尊重したグループ運営への支援」を行いながら、「合意の下に活動」ができるように支援していた。その中では、ルールを決めた円滑な話し合いを支援し、共通理解を促す情報提供をするなど調整的な役割も果たしていた。集団ではグループダイナミクスの効果が活かせず支援は有効であり、凝集性が高まり、主体性に繋がると考えられる。中山⁷⁾が報告している「活動の意思決定を促す」と「活動の合意形成」と合致する内容であった。「地域における住民組織の主体性」で定義した「組織の成員が地域の健康問題について他の成員と共に自主的に行動を起こし始める、また、起こすこと」に繋がる基盤の一つを考える。

3. 地域での活動に向けた支援

本研究で明らかになった『実際の活動を見据えて基盤を整える』、『安心して活動できる環境を整える』、『組織と地域を結びつける』、および『組織相互の交流の機会を設ける』は、地域に向けて、組織・グループとして活動を始動し継続していく際に必要な支援内容であった。これらの支援は、これまでの参加者への直接的な働きかけに加え、住民組織が発足され始動する際に円滑に活動できるように、環境を整えることを意識した支援である。

『実際の活動を見据えて基盤を整える』支援内容では、教室開始前の段階から意識し取り組んでいた。保健師は、教室企画段階からリーダーになれそうな人材を探したり、地域のボランティア団体に協力してもらったりなど、実際に住民組織として活動していくことを考え、メンバー個々の負担を軽減し、ニーズに応じて組織がスムーズに活動展開をできるようにしていた。これらは、中山⁷⁾が「地域の人材を発掘する」「新たな活動の成果を予測する」「有効な支援方法を練る」を報告しているように、地域の実情を把握し、予防的視点、管理調整機能を担っている保健師に

期待される支援内容といえる。

特に、『安心して活動できる環境を整える』支援は、地域の健康推進のリーダー役を期待される住民組織・グループの場合は、負担感がないように支援することは活動を開始し継続していくには必要な後方支援といえる。霜越ら³⁾は、地域組織活動の継続要因の一つとして、参加者が無理なく活動に参加することを挙げている。このように、参加者にとって負担のない形で組織を運営し活動をしていくためには、参加者同士の良好な人間関係づくりにはじまり、メンバーの安心、さらに主体的な活動に繋がると考える。本研究で着目したい結果は、市内をウォーキングする自主グループの活動特性に合わせて、ウォーキングマップ上で事故を防止する注意を施す配慮を促していたことは、地域の地理的特徴を把握している保健師が担える役割といえる。

『組織と地域を結びつける』支援では、地域住民や他組織との関係をつくるサポートをしていたといえる。霜越ら³⁾は、地域組織は地域住民や他の地域組織との関りをもつことが活動の継続に繋がるとし、中山⁷⁾は地域づくりに発展する「居住環境に向けられたニーズ」への対応として、「地域住民の関心」、「地縁組織からのバックアップ」「他グループとの連携」を挙げており、主体性の醸成には、継続への支援と、地域に向けた支援は必要な要素であると考えられる。

『組織相互の交流の機会を設ける』支援では、活動意欲を維持・向上するための研修実施や、他グループとの学び合いの機会を設けていた。霜越ら³⁾は、活動の共有の場への参加者は教育や研修から新たな知識を獲得し、地域の健康課題を再認識することから活動への意欲を向上させるとしている。継続した研修や交流の機会は、メンバー個人、組織の力量形成になることに加え、住民組織が自主的な活動になった後も、保健師が活動状況を見守り、別の方法で支援していることを示すことになり、

メンバーの安心や継続への意欲にも通じると考えられる。

V 結論

地域における住民組織の主体性を醸成するために、特に初期の段階で保健師が行っている支援内容は、8つのコアカテゴリーであらわされ、地域を志向する意識の醸成、組織・グループ内に向けた支援、地域での活動に向けた支援の3つに大別される。

地域の健康の推進に関わる住民組織の活動初期に関わる保健師は、住民組織の主体性を醸成するために、企画段階では特に地域を志向する意識の醸成しながら、組織内・グループ内の個々のメンバーや関係性に向けた直接的な支援、さらに、始動後を見据えて地域での活動に向けた支援をしており、それらを住民組織に対して意図的に示していることがうかがわれた。これらから、メンバーと組織の発展段階を意識し、地域に根差した活動も意図しながら支援することが重要であることが示唆された。

今後の課題としては、本研究で明らかになった支援内容と住民組織の主体性の評価、および組織の特性による特徴的な支援とその相違点を明らかにすることである。

謝辞

本研究を進めるにあたり、研究へのご協力をご快諾くださったA市の保健所長をはじめ、対象者の選定にご協力くださった統括保健師、およびインタビューにご協力くださったP区の保健師並びにQ区の保健師の皆様から感謝申し上げます。

なお、本報告は、筆頭報告者が新潟青陵大学看護学部4年次に提出した看護研究を改編したものである。

文献

- 1) 厚生労働省. 健康日本21(総論). 〈https://www.mhlw.go.jp/wwwl/topics/kenko21_11/s0.html〉. 2019. 1. 20.
- 2) 大西和子, 櫻井しのぶ. 成人看護学 ヘル
スプロモーション. 1. 東京: ヌーヴェルピ
カワ; 2006.
- 3) 厚生労働省「地域保健対策の推進に關す
る基本的な指針の一部改正について」
〈[https://www.mhlw.go.jp/web/t_doc?da
taId=00tb8511&dataType=1&page
No=1](https://www.mhlw.go.jp/web/t_doc?dataId=00tb8511&dataType=1&pageNo=1)〉. 2019. 1. 20.
- 4) 霜越多麻美, 宮崎美砂子. 地域組織活動の
継続要因に關する文献レビュー. 千葉看護
学会会誌. 2018; 23(2): 1- 9.
- 5) 山田小織, 守田孝恵, 伊藤直子. 住民組織
における保健師の支援内容とメンバーの活
動意欲. 保健医療科学. 2010; 159(2): 159-
168.
- 6) 麻原きよみ, 加藤典子, 宮崎紀枝. グルー
プ活動が地域に發展するための理論・技術
. 2003; 36(7): 49- 63.
- 7) 中山貴美子. 住民組織活動が地域づくり
に發展する保健師の支援内容. Journal of
Japan Academy of Community Health
Nursing. 2009; 11(2): 7- 11.
- 8) 坪川トモ子, 鳩野洋子. 地域における住民
組織の主体性に關するアセスメント指標の
検討. 保健婦雑誌. 2000; 56(4): 31- 322.